夕刊
磐城新聞
七月三十日發行

定價 一ヶ月 金六十五錢（郵稅 金拾五錢）
廣告料 普通欄 一行 金六拾錢 特別欄 一行 金九拾錢（五號十二字詰 指定一行增一割）
編輯印刷兼發行人 柏木哲
福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
營業部受信所（タイライワキ）平驛前町十二號 電話五六四番

（日曜祭日翌日休刊）

擔がれた話

平―大津間道中コント

酒井孤村

四

だがそんな事に臆じてたまるものか二人は人一倍膽が長いのですから夢我夢中に第一のトンネルを通り拔け次ぎのトンネルに入り掛けると『モシ／＼學生さんお願ひです』先刻の聲はすぐ後にするではありませんか、もう絶體絶命僕はもう度胸を極めました。樫村君と呼び乍らぴつたり立ち止まりました。同時に樫村の手に持つ電燈はパッところの主に注がれました、後にゐるのは確に先刻の怪しい黒い物に相違ないのです、二人は期せずして身構へてゐました、電燈に照らし出された物は化け物が髮もをどろに振り亂した女でした身に纏つたものは襤布のやうに破れ千切れた着物と言はれぬ襤褸の體それに洗足です『ナ、何んの用です』精切り大きな聲を出す積りですがお恥しい事に先刻からの恐怖で胸が塞つて思ふ樣に出ないのです、見るも恐しい容姿をしてゐますが其れでも女は慇懃に禮をしました『夜分お急ぎの處をお呼び致しまして恐れ入ります、お尋ね申すのも甚だ失禮でご座いますが、學生さん達は此れからどちらへお越し遊ばすますでせうか！』いとも爽かな東京辯に二度喫驚、化け物の正體見たり枯尾花多寡が女一人だまさか取つて食ひもしまいいざとなつたら拳固で張り倒せば澤山だ斯うなつて來ると胸の動悸が稍納まつて來たやうな氣がしたのです『僕等は大津へ行くんだが何か用かね』失敗つたなと思つたが、行先が本當の事を言つてしまひました。出鱈目を言へばよかつたと感付いたが咄嗟の場合嘘はつけなかつたのです『お願ひと申しますのは外でもご座いません、實は妾も大津迄參る者でご座います、御迷惑でもご座いませうが御一緒にお伴をさして頂く譯にはゆきませんかしら』『何んだつて？一緒？』に二人は思はず顔を見合ひました飛でも無い事だ、何處も無くてさへ淋しい夜道にこんな得體の解らぬ妖怪みたいな物と一緒に歩いて溜るものか『いや切角だがお斷りだ、僕等はね大至急の用事があるので明朝の汽車さへ待ち切れずに夜道をしてゐるんだ、さあ樫村君急ごうぜ』

僕はさつさと歩き出した

車中口占

珠鑒　小野駒平

窓外連峰嫩綠新
颷車十里景宜人
笠簑猶見挿秧急
今日田田除草頻

岩間海岸にて

魅良　環

人の世の　それに似て
はかなし消ゆる　あの浪
よ

睡蓮

好間　伊藤寒山子

睡蓮の花にとのゐの夢めりぬ
睡蓮の夢ゆめみる水のいろ
睡蓮の夢に朝かせわたりくる

汗

アカシヤのみどりが萎ねて髮灼けぬ
フライ追ふ捕手のマスクに夏日灼け
砂けむり新樹にはれてこゝにセーフ
いのち燃ゑ汗の投手をたゝかはす
汗灼くる投手のわかき頬見ずや

四疊半の童貞（一）

鬼河原狂一

以前私のゐた下宿は『高等下宿』と看板を出してゐたが、事實はこれと正反對で『下等下宿』と云ふ看板を、出すべきクラスのものであつた

何故かといふと、下宿料は可成り高値だが、待遇が非常に惡かつた。それで他に相當のものはないかと、隨分探してはみたが、結局徒勞に終つたのである

これは理想的だと思つて下宿料を尋ねて、ハタと當惑してしまう。『これでもお安くしてあるのですよ。何分不景氣ですからね』と部屋の障子に手をかけながら、お內儀さんは澄した顔をしてゐる

『どうもお邪魔をいたしました』と、お客らしくもない捨科白を殘してまた次を訊ねてみる。あるわ／＼實に安いものがある。四疊半の眞中を、煤け屛風で區切り、二人分の室にしてある。だから一人當りの疊が二疊と四分の一に當たる。したがつて、下宿料は嘘かと思はれるほど安い、しかし、私が最下級の腰辨とはいへこんな下宿の厄介になる譯にゆかなかつた。それで從前通り元の巢で、我慢をすることになつた

私の下宿の食事は、毎朝白味噌の汁一杯と、香のもの二切だ。夕食には腐つたかと思ふやうな、魚の一と切がついてゐる

部屋だつて、煤けた障子を壁の隙間から、砂塵が舞込んでくる。電車や自動車が通ると、二三寸も傾いた部屋は、メリ／＼と唸りを立てる。大げさにいふやうだが『死んだ兒が眼を開くかも知れない』と、こんな形容詞でもつかひたくなる

下宿のお內儀さんは、一見するとツワリ時の婦人の如く、怒りつぽくて、大した惡戯もしない子供を終日どなりちらしてゐる。しかし子供は馴れ切つて犬の如く。實に平氣なものである

ゆきずりの　旅のこゝろ
に
忘れ得ぬ　人のおもかげ
地圖を拔きて　名も分か
ぬ
小さき村に　學友の
今尚居ると　なつかしく
しのぶが如く　云へる人

7月31日

△記錄に見る最古の日食（前一、〇六三）△エヂソン蓄音器發明特許を得（一、八七七）△南洋土人始て來遊（大正四）△活版工罷業東京全新聞休刊（同八）

小説

高橋是清

(79)　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

東家の歼吉（四）

福井屋數右衛門が、脂下りに啣へてゐた煙管の雁首を、ポンと吐月峰に打ちつけて

『としますと失禮ながら』

和喜次の俯向いた横顔へ冷めたい視線を注ぎながら

『この月限り、天下無祿の御浪人と、かう言つた譯でございますね』

和喜次は苦笑して

『その通りだ』

然し福井屋は、その笑ひに應じやうとはせず

『さうですか。さうなりますと。手前の方はどうなりませう？』

と、言つた

『どうなる、と言ふと？』

『今まで通り居て戴くのは結構ですが、御承知の通り手前の方も樂な暮らしと言ふ譯ではなし、實は、この間か折を見て、と思つてゐたのです、が宿屋ぢやありませんから、部屋代までとは申しませんが、日に三度の代金位は頂戴出來ませんと……』

和喜次は顔を擧げて福井屋を見た。が、直ぐ又目を伏せてしまつた。今までついぞ、こんな事を言つた事のない男だつたのである

それが、辭表を出したと聞くと直ぐに、これである

和喜次はうそ寒い氣がして低く

『さうか』

『實のところは、手前から申上げなくとも、さうにお話があるかと思つてゐたのでしたが……』

（そんなものどころか逆に、それ以上の事を、してやつて來てゐるではないか）

言はふとしたが、無駄と知つて沈默した。今月から全く無收入の自分である。三人の爲の立替金に對しても、月々利子を入れなければならないし、元金の返濟も成可く早く、と迫られてゐるし、重る遊びに貯へも殆ど遣ひ果して了つてゐるし、今又……

『如何でございませうねえ？』

福井屋は然し、無表情な顔を突出して、小鬢を掻いた

『出さぬとは言はぬ』

『そりやあさうでせうねえなにしろ、お辭めになつたとは言へ、教師の資格のあるお方が、眞逆いつまで權八……と言ふ事はござんすまいし。へゝゝゝ』

（どの顔で！）

と、思つたが、對手にするのも莫迦々々しい氣で[illegible]た

（衣類にも賣り拂つァ！）

然し、そんな事で幾月の拂ひが、暮らしが出來るものでなし、然もこの先きいつまで續くかも知れない無收入狀態

和喜次はちらと目を擧げて書架を見た。蒐集した書物には、餘り手を付けてゐなかつた。そして夫等の中には、苦心して手に入れた當時としては相當高價な珍らしいものもあつた

（これでも金にかゑて！）

悲しい諦めだつた。書物への愛着が、こんな場合によつて初めて一層強く心迫るのを覺へた。それと共に、まるで切れた草鞋を捨てるやうな態度で、自分に對してゐる、厚顔な福井屋への憎惡心が募つて來た

（これが世の中……）

そんな風な氣がした

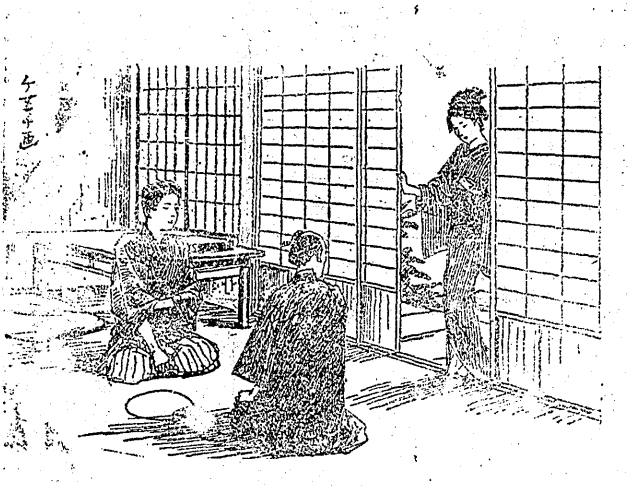
『ところで手前もこゝんとこ、ちよいと手許不如意と言ふ恰好で困つてゐるところなんで、今直ぐと言ふ譯でもありませんが何んとか一ツ……』

福井屋が又言つた。和喜次はぐつと胸に來たが、何にも言はふとせず、頷いて立つて書架の書物に手を伸べた

と、その時

『だからこんな御時世は嫌ひさ』

傳法な若い女の聲がして庭に面した廊下の障子が手荒く開かれた



廣告

平町田町
井坂產科婦人科醫院
電話 五五九番

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

天下一品マヅイ
素人料理
おでん 榮ちやん
酒にやき鳥
冷ビールにサイダー
平・新田町・電三三番

高久病院
院長 高久忠
平町田町電五一三

婦人清涼着トカンタン服特賣
平町三丁目 電話六一三
信用堂洋服店

心ヨク通ジ藥
アロフエノール
平田町
阿部藥舖

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前
平屋賣店

夜間診療
胃腸性病 專門
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電話一〇七番）

和洋家具 建具
テーブル 椅子
其他裝飾品一般
御用命は迅速に御努め致します
諸官衙 各學校 御用達
平町五丁目四
片寄製作店
片寄小彌太
電話四八四番

第三回池坊須藤春峯社中講習會
一、開期 八月二日、三日ノ二日間
一、講師 茨木峯月先生（福島市）
一、場所 平町大町若松病院內
一、會費 資格ニヨリ一、二、三圓
御希望の方は入會若松病院內へ御申込み下さい

メガネは正確にして廉價
最新式レンズ各國製
眼鏡
（亂視用眼鏡卽時調製）
當店に取揃へて御座います
根本時計店
平町二丁目 電話六〇七

內臟外科一般
外科 花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

外科、內臟外科
エツキス光線科
新設 產婦人科
院長 安齋徹
醫學士 黑澤廣
平町田町
入院隨意
安齋醫院
電話四七五番

吉例土用丑
牛肉大賣出し
三十日土用丑
滋養豐富な牛肉を是非
平町田町
石川亭
電話四十三番

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戶線下館驛前（電話五五・三三九番）
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三）
常磐線關本驛前（電話八二四）
常磐線四倉驛前（電話平潟五四）
久慈濱支店（電話四八）
小名濱支店（電話二三七番）
海上給油出張所（大津、平潟及小名濱）
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、胡麻油、植物油、種油、カーバイト、タール、石炭、コークス、ストーブ

公社債株式現物賣買
照山株式平支店
主任 常盤光威

小店員募集（十五、六才）
委細面談
福島縣平町田町五
振替東京八八一六二番
電話四十六番

お醬油は……ヤマフル
味噌醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

亡父松次郎儀葬送の際は御多忙中にも不拘御會葬被下且御鄭重なる御香奠を賜はり御厚志之段難有奉深謝候、實は一々拜趨御禮可申上筈の處乍略儀以紙上御禮申上度如斯御座候　敬具

昭和十一年七月三十日

福島縣平町白銀町十三番地
男 齋藤角治
榮家 齋藤千代
外 親戚一同

「意氣で存分鬪はん」と信念

晴の檜舞台を胸に描いて

磐中野球部けふ出發

東北大會出場の磐中野球部は布陣の都合から繰上げ今三十日午前八時三十分平驛發列車で山本、豊口正副部長引率の下に多數見送りを受けて出發した、出陣に面輝した秋山主將は『試合に對する信念と意氣で存分鬪ふ心算』と言葉短かに語つた、一行の宿舍は山形驛前杉山旅館、なほ小檜山校長並に吉田同部後援會長は明三十一日發援に出發すると

山室民子女史講演會

明夜マルトモで開催

救世軍日本本營附で同士官學校の教官である山室民子女史（山室軍平氏長女）の講演會は明三十一日午後七時半からマルトモホールに於て開催するが入場無料、一般の來聽を歡迎すると　女史は東京女子大學より米國加州大學を卒業、シカゴ大學短期勉學後英國に渡りロンドン救世軍士官學校卒業、英國婦人社會事業部に勤務した經歷を有する現代日本女性中の第一線を行く宗教界の先覺者である

浴客の慰安會等

豊間の海は招く

張り込む地元青年團

小學校の夏休み等愈よシーズンを迎へた各濱はいま迎客の準備に忙しい。今年から全村青年分團が合流して『豊間の海は招く』等のポスターにより避暑客の誘致に馬力をかけてゐる豊間村でも目下バラック脱衣場の建造を急いで居るが、來月五日夜は海水浴客慰安を兼ねた『小學兒演藝會』を青年團主催の下に同村小學校で開き一般の飛入りを歡迎してゐる

佛教講演會

來月一日九品寺で

磐城布敎團では來月一日午後一時平町九品寺に淨土宗敎學部長中村辨康師を招き『日本精神と淨土敎の眞髓』と題する時局講演會を開く一般來聽歡迎

直通路潰地買收協議

來月二日神谷弘源寺に

兩町村の地主參集

平―神谷間直通路開設による潰地買收の第一回協議會は來月二日午後一時から神谷村弘源寺で開く　平町關係の潰地は鎌田町猪狩顯德氏外十五名の所有なる宅地三百四十一坪畑一五歩、神谷關係地は二十一名の所有する山、田畑一町七畝二歩、宅地百一坪であると

豊間小學　暑休行事

豊間小學校では暑中休暇中來月一日から五日間兒童趣味の講習會を開き水泳、音樂、運動、書方、圖書等に夫々受持訓導が指導する、尙暑休中は一日毎に兒童を召集、生活、健康狀態を調査なる事となつた

。。。。。。

好間靑年團視察

好間村　好間靑年團一行五十餘名は昨二十九日小名濱町縣水產試驗場、測候所、罐詰工場等を視察した

石炭試掘許可

赤井村永山重太郎氏出願の同村二十九萬六千八百坪、群馬縣伊勢崎町伊丸岡すわ氏出願の山田村六萬七千坪の各石炭試掘、東京市牛込區榎町野口健一氏出願の澤渡村十八萬二千三百坪の滿俺試掘は何れも許可になつた

うしの日の犧牲

牛九頭、馬六頭

けふの丑の日を前に昨二十九日平屠殺場で哀れ？犧牲になつた牛馬の數は

牛九頭（肉量五百貫）　馬六頭（一二〇貫）

で豚十五頭（肉量二百貫）迄この日のとばつちりを喰つた、けふの賣れ行きはどこも素晴らしく向鉢卷に景氣のよい掛聲が街頭に流れ、うな丼なども朝から注文してさへ盡迄には間に合はぬ始末だ

前後五日間に

新患十一名發生

チフス恐怖時代の勿來町

勿來町では今春來合計十六名の腸チフス患者を出したので過般來夏季の發生を警戒してゐた處

二十五、六、七の三日間に八名　二十八日一名　二十九日二名

の新患を出し何れも直に隔離の上大消毒を執行、昨二十九日は淸野縣防疫官來郡今後の撲滅豫防に就き植田署と打合せた

虛空藏樣大當

。。。。『鹽の虛空藏』で有名な神谷村大字鹽の福一虛空藏は丑寅の干支の護身佛として地方民の絕大な崇信を受けてゐるが七月三十、卅一日の祭典が偶然にも今年は丑寅の日に當り三十數年來の珍しい事とて緣起をかつぐ善男善女の參詣多く非常な賑はひを豫想されてゐる

四倉洋灰の道場開き

昨日劍道大會賑ふ

四倉町磐城セメント工場の演武場（六十坪）は從業員

。。。。統計講習會　江名、小名濱、豊間、高久、飯野、夏井、鹿島、玉川二町六ケ村の統計講習會は三十日午前九時から豊間小學校に開いた

濱行きで「賑ふ平驛

平驛の切符賣上げは

四倉行五〇〇　久の濱一〇〇

で出札子は語る『天候が思はしくなく乘合等も相當進出したのでそれ程でもなかつたが來月二日は素晴しいぞ』

貝燒きの冷凍製法

小名濱日食で計劃

石城七濱の水產加工品たる貝燒は腐敗しやすい處から他地方への移出も困難で折角豊富な原料を持ちながら比較的發展せぬのに鑑み日東食糧工業小名濱出張所では冷凍製法により今年度中に一萬個を生產、中央方面に移出すべく目下着々計劃を進めて居る

紹介所機構改正協議

四家平職業紹介所長は明三十一日齋藤縣並に北海道職業紹介所長會議に出席のため今三十日出發した　今會議は全國紹介所が今般內務省直屬から縣移管になり、これに伴ひ來る九月一日から紹介所の機構改正による各方面の打合せがある

天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晚は北の風晴、明日は北東の風晴時々曇

入山の運轉係技手

坑內で感電殉職

精勤の布谷氏けふ坑葬

入山炭礦運轉係技手布谷丑之助氏（四八）は昨二十九日午後一時四十分頃第六坑第一斜坑捲揚場に於て監督作業中誤つて二千五百ヴォルドの送電線に觸れ感電即死を遂げた　氏は在職二十年精勵恪勤の士で氏の急逝は誠に同社の一大損失と云ふべく今三十日午後五時から社宅前廣場に於て惣善寺住職森文雄師導師の下に坑葬を營んだ

菊田近信

。。。植田小麥出荷　植田町農會斡旋の小麥出荷は第二回目として廿八日植田町上遠野入遠野三ケ所で五百五十俵を出荷したが、出荷先は水戶市日淸製粉株式會社で値段は十六貫匁入一俵八圓七十錢見當である

。。。。方面委員講習　方面委員社會事業講習會は來月四日より五日間小名濱に於て開催、植田町より左記諸氏出席する

助役渡邊玉之助　長瀬米次

。。。。養蠶組合長會議　養蠶實行組合長會議は去る廿八日植田町役場で開催、桑園改植補植助成金の割當額に就き協議したが植田町實行組合の割當額は百二十六圓と決定した

。。。。小濱採鮑成績　植田町小濱に於ける最近の鮑採取況は廿七日四十七貫、廿八日五十貫、廿九日四十五貫、水揚三十割見當、本格的採取は來月からであらうと

。。。。勿來助役退院　チフスで永らく入院中であつた橋山勿來町助役は廿七日退院した

內郷の不良

短刀で恐喝

內郷村宮字平太郎元坑夫磯崎信吉（二二）假名―は去る二十四日午後六時頃元の同僚藥谷直吉（一九）外三名を誘ひ出し『海水浴に行く小遣ひがないから一人三十錢宛づゝ借せ』と强要して拒絕されるや刃渡四寸餘の短刀二本を突きつけ恐喝した事平署で探知檢擧された

六十爺の石炭酸自殺

稻荷樣の境內で

江名町風越小泉春吉（六四）は二十八日夜九時附近稻荷神社境で石炭酸を嚥下覺悟の自殺を遂げた、原因平署で取調中

搾取男横田に二年

けふ平區の言渡し

自分の內妻との醜關係を種に惡辣な搾取を働いた恐喝男當時平町材木町旅人宿松葉館止宿田村郡御館村生れ前科二犯横田澄吉（三二）の恐喝暴行、文書僞造行使、詐欺事件は今三十日平區で香判開廷、求刑通り懲役二年を言渡された

平區略式一束

。。怠慢　江名町北町沿海航路機帆船吉丸船長大久保初吉（三〇）は四月中同港出帆に際し航海中船內に常備すべき船舶國籍證書、海員名簿並に航海日誌を備付けず七月初旬迄八戶市まで回航したが船員法違反で罰金十五圓

。失火　小名濱町古港同町坂本喜重郎所有發動機船喜穩丸機關手竹中消五郎（四七）は六月一日入港に際し煙突の過熱し周圍を燒いてゐる狀態を知つてゐながら下船に殘火の始末を怠つた爲め同夜半失火機關室を燒き罰金二十圓

。不參　錦村江栗字馬場小鍛冶長吉方香川縣大川郡引田町生れ海軍二等水兵根ケ崎虎一（二三）は六月六日郷里で行はれた艦上點呼に故なく不參、海軍召集規則違反で科料十五圓

。夜逃　勿來町酒井字出藏大日本炭礦勿來坑飯場二階堂鐵雄方日雇熊本縣生れ强姦前科一犯高木太平（三二）は六月十一日夜半同町關田字關山勅使河原德眞方その他に侵入罰金四十圓。何れも此程平區より略式命令で處分された

銷夏篇

……（10）……

高僧への夢知らせ

岩城家を再興

實際あつた獵奇話

鎌倉將軍の時代に、岩城常道の子正道は父の歿後、今で云ふなら玉突、麻雀と云つた方面が一挺前の性分であつたらしく、常に國政を怠り勝ちな處から姉婿村岡重賴に國の政治を委せて置いた處、之がまた渾身これアンビションと云つた樣な男で無制限に各方面へ伸ばした觸手は終に大事な本尊の正道を殺めて了ふに至つた

0

然るに忠臣大村次郎信澄があつて正道の子醫王丸を守り時節をまつて逆臣を誅し、岩城家を再興すべく奥方及若君、若姬万珠、召使小笹を伴れて岩城を立ち出た處、陰謀飽く無き重賴は先廻りして途に純忠の臣信澄を殺した

0

若君以下は日數を經て越後の國寺泊の海邊にさまよつた處、よくも宿命に呪はれた一行は端なくも海賊の張本三國太郎の手下山伏鬼夜叉に見つけられ、應に覗はれた小雀の樣な若君と若姬は由良の三莊太夫の家へ送られた。三莊太夫の本名は三國太郎と云つて越前から丹後へ來て隱れ家を構へ由良、橘立、成合の三莊を所持する處から三莊太夫の名があつたものである

0

ここに閑院左大臣爲房卿或る夜の夢に『奥州の大名岩城常陸介正道が姬丹後の國迄さまよひ、邪見の手に掛り此世に亡き身となりつれど、弟醫王丸、橘立延命寺觀音和尙の情にて一命を救はれ、今東山の庵室に忍び居り、天奏の便手を求め候なり、三井寺の了圓僧都は自が伯父に候なり』と訴ふ樣を夢み郎ち人を遣はして醫王丸を招き名を道隆と命じ兵を與へ本國へ下し、宿怨の村岡を誅つて岩城家を興さしめた

0

―平城址に關する古文獻を見ると

慶長七年（一六〇二）鳥居古祠を轉じて築城す、丘陵に倚り溪壑を包み方六町許り內外二重の濠を廻らしたり、是より先き岩城貞隆羽州由利郡龜田に移さる―

とあつて平に於ける岩城家はその前に卽ち八重葎繁りに茂つて蒼鼠慶死に隱るる今の平城址とも關係が無い程左樣に古いものではある

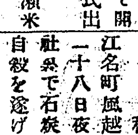
三十一日

（小名濱測候所發表）

日出　四、四三　月出後　四、二六

日沒　六、四三　月沒前　一、二三

滿潮　後　四、一五　干潮　前八、二五　後八、三五



舊六月十三日

金曜　乙卯　先勝　戍　女宿

新七月三十一日

諸判定應需

東京市本郷區湯島四丁目

高島易斷總本部　神誠館

▲一白　十分と見込みて爲せし事も外れ勝ちなる日▲二黑　實の足元に在るを氣付かずふみ越ゆる如し▲三碧　機を捕ふる事敏なれば勞少くして効多し▲四綠　喜憂交々至りて變動常なし內外注意すべし▲五黃　運氣浮動の日迷ふ時は他の手に乘り易し▲六白　勞をおしまず苦を厭はず努力すれば効ある日▲七赤　自ら抑へても我意募りて失敗に陷り易き日▲八白　意外の不利を招くことあり口入れ事は注意▲九紫　凶より吉と次第に發展すべし口舌失物注意

暑中御伺ひ

磐城炭鑛株式會社
所長　菅原萬治郎
副所長　磯崎善三郎

入山採炭株式會社
所長　吉田宗雄
副所長　大貫經次

暑中御伺ひ

白水炭礦會
五十嵐炭礦鑛業所
杉山炭礦鑛業所
神奈川炭礦鑛業所
浪花炭礦鑛業所
高階炭礦鑛業所
壽炭礦鑛業所

古河鑛業好間鑛業所
所長　下野十朗
係長　安孫子虎雄

小田炭鑛株式會社
社長　荻原中八

豊間大敷網事務所

磐城建物株式會社
取締役支配人　井上貞治郎

石城郡內各學校長會

植田町長　古川傳一

植田郵便局長　馬上守一

福島縣平町（電話五一九番）
堀江工業株式會社
出張所　東京市麹町區大手町二ノ三日本生命ビル三二九　電話丸ノ內一、八九三番
八戶市湊町（電話四〇六番）
專務取締役　鈴木唯次
取締役兼工事部長　堀江新太郎
支配人　長谷川常吉

湯本信用無盡株式會社

石城郡町村長

縣會議員
小名濱町長　小野晉平

石城郡組合銀行

大日本電力株式會社平營業所

平運輸株式會社

福好工業合資會社
强口唯七郎
電話二八二番

高橋龜松
平町白銀町　電話六三八番

借るに便利　預けて有利
平庶民金庫

平藝妓屋組合

阿部政右衛門

平町長　靑沼鋒太郎

大床
平町田町
石崎幸一
石崎茂

平看護婦會　淸野キヨ

山田文一商店